

臨床研究

『免疫療法への反応に関連するタンパク質発現と形態学的特徴』を検討する研究について

茨城東病院胸部疾患・療育医療センター病理診断科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

現在肺癌の治療ではPD-1/PD-L1阻害薬を用いた免疫療法が行われ、一部の進行がん患者に良い効果をもたらしています。PD-1/PD-L1阻害剤で治療する際には、患者さんより採取した肺癌の組織検体でPD-L1検査を行い、治療を行うかどうか決めていきます。しかしながらこのような検査を行っても半数以上が治療に反応せず、また治療を受けた患者さんの一部では、重大な免疫関連の副作用を発症する可能性があります。したがって、免疫療法への反応を確実に予測できるマーカーが必要です。そこで、世界肺癌学会の肺病理医グループによって免疫療法への反応を予測するために、免疫療法で治療された進行がん患者の治療前および/または薬が効かなくなった後の検体における免疫関連マーカーと形態学的特徴を分析します。治療前の検体の形態的特徴を特定するための人工知能（AI）でも評価します。

② 研究対象者

2015年1月から2022年2月までに当院でPD-1/PD-L1阻害薬による免疫療法を受けた患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年12月31日まで

④ 研究の方法

- ・検体は、マサチューセッツ総合病院（ボストン、アメリカ合衆国）でCD8の免疫組織化学染色を行う。
- ・免疫療法への治療反応を予測するための方法を作成する。
- ・すべての検体はデジタル画像として保存し、AIによる解析を行う。
- ・研究に参加する病理医はハーバード大学医学部の関連病院（パートナーズ）および世界肺癌学会の病理委員

⑤ 試料・情報の項目

⑥ 年齢、性別、使用したPD1/PDL1薬名、組織診断名、予後、送付検体：PD1/PDL1治療前未染（何も染色していない）スライド 5枚以上（生検、細胞診または手術）

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

茨城東病院胸部疾患・療育医療センター 病理診断科 南優子医師

⑦ 研究機関名および研究責任者名

茨城東病院胸部疾患・療育医療センター 病理診断科 南優子医師

マサチューセッツ総合病院・ハーバード大学医学部 Mino-Kenudson, Mari 医師

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんが本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

茨城東病院胸部疾患・療育医療センター：〒319-1113 茨城県那珂郡東海村照沼 825

所属：病理診断科 担当：南優子医師 電話：029-282-1151（月～木 8:30～17:15）